

**「各国民が団結して、良心にしたがって行動するならば、
戦争を防ぐことができる」**

その人は、今から百九十年前の昨日、スイスのジュネーブでご誕生になりました。彼は自分の仕事をもっと立派にしたいとの思いで、北イタリアのソルフェリーノの町を訪れたそうです。しかし、そこで彼はとても悲しい光景を見ました。その光景とは、戦争で亡くなったり、負傷したりしたおびただしい数の人々があちらこちらに横たわっている様子です。

自分の仕事のために来たことも忘れてその人は、その土地に住む人々に声をかけ、負傷した人々を一心に救護したり、食糧の調達に奔走したりしたそうです。ときどき「敵の人をなぜ救わなければならないのか」という問いがあっても、「傷ついた者に、敵も味方もあるものですか。人間は、みな兄弟です」という言葉で答え、救護活動を続けたそうです。

その人は、その土地を離れた後も、戦争が終わった後も、戦争の時の救護活動だけでなく、戦争や病気などによる人類の苦しみをなくすための活動を続けたそうです。その人が、人々に送った素晴らしい言葉が、「各国民が団結して、良心にしたがって行動するならば、戦争を防ぐことができる」です。

その人とは、アンリー・デュナンといい、赤十字の父と呼ばれる人です。赤十字のマークは、彼の生まれた国の国旗を生かして作られたそうです。

このように崇高（すうこう）な願いの下、赤十字活動は続けてこられました。日本では「日本赤十字社」がその中心となって取り組んでいらっしやいます。その日本赤十字社から、この度、赤十字活動に大きく貢献したという理由で、「銀色有功賞」をいただきました。



今後も「戦争のない地球づくり」に向けて、起っ子は取り組んでいきます。